





思いを届ける音楽

特集

令和3年の全国コンクールで最高位の賞に輝いた
黒沢尻北小学校合唱部と上野中学校吹奏楽部。
両部が全国の舞台で輝き続けられる理由は何なのでしょう。
そこには部員の並大抵ではない努力と人々の熱い思いが 一。

上野中学校吹奏楽部



【黒沢尻北小学校合唱部】

成長できている

自分を感じられるように。

Interview

部の目標は、感謝の気持ちを届けること。



黒沢尻北小学校合唱部 6年 宇津志 理咲 部長

部の目標は「聞いてくださる人に感謝の気持ちを届けること」です。実際に私たちの歌を聞いた人から「元気をもらったよ」「ありがとう」と言われることがあり、それが本当に嬉しかったです。

部長として意識していたことは、みんなに平等に、優しく接すること。そして、厳しくしすぎず、楽しく歌うということを大切にしていました。部の雰囲気は明るくて、とにかく元気です(笑)。顧問の中野先生は歌唱力があり、分かりやすい表現で指導してくれる憧れの存在です。

前回日本一になったということもあり、部長としてプレッシャーがありました。「賞にこだわらず、成長できたところを發揮しよう」と部員全員で取り組みました。その結果、自信を持って歌えるようになり、日本一を取ることができました。

第74回全日本合唱コンクール全国大会

の小学校部門(令和3年11月6日、埼玉

県所沢市)で、最高賞にあたる埼玉県知

事賞を受賞した黒沢尻北小合唱部。4、

6年生の全部員64人で美しいハーモニー

を奏で、日本一に輝きました。令和2年

はコロナの影響でコンクールが中止とな

りましたが、最高賞の受賞は令和元年に

続き2大会連続の快挙で、前回は北上市

民栄賞も受賞。部員や顧問、関係者ら

は感謝と感動を分かち合い、今回の偉業

は市内を明るく照らしてくれました。

歌詞に思いを込める

黒沢尻北小合唱部の特徴は「歌詞に感情を込める」こと。そのための練習として歌詞に沿って絵を描き、音読をします。また、表現力を高めるために取り入れている手法は、歌に踊りの振りをつけて表現するオペレッタ。部員は音楽を全身で表現し、楽しみながら練習しています。

短時間の練習で集中力を發揮

登校日は朝、昼、放課後に時間を分け、それぞれ短時間で練習しています。部員は限られた時間の中で集中力を發揮し、伸び伸びと歌っています。ピアノの伴奏を担当している、ピアノストの阿部美礼さんは「この部はこの学校より練習してきた。集中して練習に励んでいる姿に胸が熱くなる」と部を高く評価していました。

Interview



黒沢尻北小学校合唱部 顧問 中野 美由紀 先生

全国大会で金賞を取ろうという目先の目標を、本番2週間前に「コンクールのためではなく"日々少しでも成長できている自分を喜べるような練習をしよう"」と変更しました。

子どもたちによく伝えているのは「地道で面白みに欠けるつまらない練習しかない」ということです(笑)。一音一音ハーモニーを確認したり同じところを納得のいく表現になるまで何度も繰り返したりしています。うまくなる魔法はありませんから、地道な練習をし続けることが大切だと思います。

また、失敗してもいいから、自信を持って歌おうという言葉も掛けています。私自身が理想とする音楽のイメージはありますが、その範囲に収めるのではなく、むしろそこを飛び出すくらいのエネルギーがある合唱が胸に響く音楽だと感じます。そのほうが子どもたちもイキイキして見えますね。

うまくなる魔法はない。最後に笑うためには、地道な練習を積み重ねること。

【上野中学校吹奏楽部】

感謝・感動・

笑顔をお届けしよう。

コロナの影響もあり、いつ練習ができなくなるか分からず不安でした。実際、昨年度はコンクールが中止に。だからこそ今できる最高の演奏をしようと声を掛けていました。練習ができることも、教室が使えることも、コンクールが開催されることも当たり前じゃない。昨年度の先輩方の思いを胸に、今年は頑張らなければと思っていました。

先生に言われて励みになった言葉は「昨年の部長と同じようにやるとか、そういうことは考えなくていいんだよ。あなたらしいやり方でやって」です。僕は優しくみんなに接していける部長って大事なんじゃないかと考えていました。なので一人一人のことを考えて、お互いのことを理解しながら部を引っ張りました。そして部のスローガンである「感謝・感動・笑顔」を常に意識して練習に取り組みました。



上野中学校吹奏楽部 3年
及川 諒 前部長

Interview

いつ練習できなくなるか分からない。だから今できる最高の演奏をしよう。

上野中吹奏楽部は、第69回全日本吹奏楽コンクール中学校の部（令和3年10月23日、名古屋市）で最高賞の金賞に輝きました。全員46人で庄巻の「上中サウンド」をホール中に響かせました。

全国金賞に輝いたのは平成30年以来3年ぶり。二度目となる金賞の荣誉に、部員や顧問、保護者が喜び、市内の多くの人に感動を与えました。

厳しくも、明るい雰囲気

緊張した空気が張り詰める練習室。そこには顧問の柿沢先生が指導している声と、生徒が真剣な表情で一生懸命練習している音色が響いています。厳しい雰囲気の中で練習しているかと思うと、柿沢先生の冗談に、湧き上がる笑い声。練習の場には厳しさだけでなく、明るさや楽しい雰囲気があります。

常に高い目標を持って

人々を魅了するサウンドを奏でる上野中吹奏楽部は目標設定が明確です。今日は何をするべきか、1週間後までに吹けるようになるためには何をしないといけないのか、コンクールまでにどうしていくのか。目標を細分化し、小さな目標の達成を積み重ね、最終的な目標に近づいていくスモールステップを徹底していました。また、目標を紙に書いて視覚化するなど、部員は常に高い目標を頭にに入れて、必死に練習しています。

Interview

PDCAサイクルを徹底し、いかに自主的に練習できるかが大切。

私は子どもたちと音楽をするのが好きだけなんです。楽器を通して子どもと遊んでいる感覚というか(笑)。子どもは純粋なのですぐに伸びるし、成長を感じるときは私もうれしいです。

大切なことはPDCAサイクル(計画、実行、見直し、改善)を徹底し、いかに自主的に練習できるかです。

また、ライバルの存在は大きかったですね。盛岡市の北陵中学校が県内の中学校で初めて全国大会に出場したとき、岩手の子もできるんだと思いました。どこで育てても子どもの年齢は同じなのだから、うちの学校もできる！と思って指導しました。

指導で意識しているのは、どうやれば上手く演奏できるか、解決方法を具体的に教えること。時間は限られているのでその場で改善する。金賞はその小さな積み重ねが花を咲かせたという感覚です。今後はもっと北上や岩手の音楽を盛り上げたいですね。



上野中学校吹奏楽部 顧問
柿沢 香織 先生

強さの秘密

これほどまでに愛され、認められる黒沢尻北小合唱部と上野中吹奏楽部。そこには部員と顧問の信頼関係や多くの人の熱い思いがありました。



強さの秘密1 研究熱心な顧問

部員の力を最大限引き出す指導法

練習中に見せる真剣なまなざしや、仲間と思いつき笑い合う笑顔など、部員たちはさまざまな表情を見せてくれます。

両校で共通しているのは、顧問が音楽や組織作りなどを熱心に勉強しているということ。中野先生は「子どもたちの可能性の引き出し方をたくさんの方から教わっている」と話し、柿沢先生は「子どもたちは目標設定を明確にするとどこまでもパフォーマンスが向上していくので、その子にあった指導を心掛けている」と語りました。

部員たちが輝いているのは、顧問との深い信頼関係を築いているから。そして、部員一人一人の個性があるのももちろん、その潜在能力を顧問が最大限引き出しているからでした。

強さの秘密2 さくらホールの環境

練習できる環境が整っている

両校顧問はさくらホールの音響の良さや、コンクール本番を想定したリハーサルができることを利点として挙げています。

さくらホールは平成15年11月27日に開館し、いつも人で賑わう「まちの文化広場」がコンセプト。特に演奏やダンス、生け花など、さまざまな目的で利用できるアートファクトリーは、ガラス張りでお互いの芸術活動が垣間見え、文化的な刺激や交流の場となっています。

本物の音を知り、耳を養う

一流ミュージシャンのコンサートを開催できる規格を備える大ホール。本番の演奏だけでなく、リハーサルを見学生徒に公開し交流するなど、プロの音色や演奏スキルを直に学べる環境が身近にあります。

コンクールで上位に入賞するための入念な準備が行えることはもちろん、音楽や芸術の理解度やスキルを高められる環境が身近にあることで、そこで培ったものを吹奏楽や合唱で表現することができています。



①芸術活動に打ち込むことができるガラス張りのアトリオと、人々が交流できる共有スペース②プロ音楽家による演奏指導が受けられるのもさくらホールならではの③光が差し込む開放的な外観



①



②



③



④



⑤



⑤

黒沢尻北小 合唱部

①先生の話しに聞き入る真剣なまなざし②昼休憩時にはお弁当を作ってくれる家族に感謝③オペレッタでは空を飛ばしシーンで観客を魅了④感情を乗せて、伸び伸びと歌詞を表現⑤緞帳が下がる中、最後まで観客に手を振る小学生らしい一面も
※②③⑤はレインボーコンサート当日の写真です。

上野中 吹奏楽部

①パートごとに演奏しハーモニーや表現を一つ一つ確認②定期演奏会にてバンドを支える低音パートの凛々しい姿③自作の旗を掲げて全力で応援する保護者たち④拍手が響き渡る会場に向かって大きく手を振る柿沢先生と部員⑤迫力ある音色をホールいっぱいに響かせる

強さの秘密3

力強い周囲のサポート

地域の人の心強い応援

両校は黒沢尻北地区にあり、そこで育った部員が口をそろえて言うのは「地域の人や保護者、応援してくれている人へ感謝の気持ちを届けたい」ということ。地域の人が応援の言葉を掛けたり、協賛金に協力したり。子どもたちは保護者らだけではなく、地域から応援されていることを実感しています。

「7人の顧問」の連携力

黒沢尻北小合唱部では、7人の顧問が会計や通信などさまざまな係を分担しています。定期演奏会の練習では顧問が連携して衣装や小道具の準備をしたり、子どもたちを励ましたりする姿がありました。中野先生は「顧問の連携力の強さが黒沢尻北小合唱部の特徴の一つ」と語り、この支援体制が部員を支え続けています。

音楽と北上を愛する「チーム北上」

市内各校の吹奏楽部は、学校の枠を越えた交流を定期的に行っています。「上野中吹奏楽部が初めて全国大会に出場したとき、他校の指導者は祝ってくれただけでなく、練習に来てアドバイスをしてくれた」と話す柿沢先生。「チーム北上」で高め合っているという音楽とまちへの愛が強さの鍵かもしれません。

強さの秘密4

先輩の思いを

受け継ぎ、繋げる

昨年、両部が最高位の栄冠に輝いた理由は、もちろん部員の並々ならぬ努力があったからです。しかし、取材を通して新たな秘密が分かりました。それは「先輩の技術や熱量などが受け継がれ続けている」ということ。上級生が引退すると一からのスタートですが、これまでに培われた財産が後輩に受け継がれ、それが次の世代へ繋がっていく。急に強くなったのではなく、長い年月をかけ、これほどまでに愛され認められる部に成長したということです。

部員の努力、人々の熱い思い

この偉業が成し遂げられたのは「努力する部員」はもちろんのこと、強さの秘密である「部員の力を引き出す顧問」、「練習環境」、「周囲のサポート」、「受け継がれる思い」などさまざまな人や環境がつながり、共鳴し合っていたからです。

そして、部員や顧問、関係者などの思いが大きな力となり、最高の舞台で夢をかなえ、そのたくましい姿は私たちに大きな希望を与えてくれました。

人々に愛され、輝きを増していく黒沢尻北小合唱部と上野中吹奏楽部。さまざまな人の熱い思いをメロディーに乗せて、今日もまた夢に向かって練習に励んでいます。